



鉄の夢

の夢 / The Dream (1972) / ハン・スピングラッド (宏訳) / 早川書房 (刊 · ¥1,200)

もう一つの世界で、ヒットラーが著わしたSF小説が、本書であるけれども、その世界でのヒットラーが、どのようにしてアメリカに渡り、SF界に名を残したかは、作者紹介と「第二版へのあとがき」で、簡単に触れられているにすぎない。

読者に熱狂をもつて迎えられ、第二回ヒューゴー賞を受賞した(という想定の)本文は、主人公フェリックス・ジャガーが、純血種の誇りと勇気とともに、ミュータントや優勢種の支配を、ついに打ち破る物語――。

これは、明らかに、ヒットラーらナチスのパロディである。しかし、それ以外にも意図がある。たとえば、その当時の現実の世界と、「あとがき」の書かれた、もう一つの五〇年後期とが、ほぼ同じ状況に描かれていること。たとえば、英雄崇拜の風潮が蔓延する中で、アメリカのファンたちが、ヒットラーの小説を喜々として賞に選んでしまうこと。いや、そもそも、史実がいかにありそうにない、起こりそうにないことに思えるか――ということを。すべてが、多重化されたカツコの中に封入されている。まだ、本邦では、ほとんど知られていないスピングラッドの秀作である。(後)